阪神・淡路大震災25年事業

阪神・淡路大震災25年
兵庫県こころのケアセンター開設15周年記念
こころのケア国際シンポジウム
災害とレジリエンス

日時 令和元年
11月7日㊍ 13:00～18:00

場所 **神戸ポートピアホテル**
本館地下1階「和楽」
神戸市中央区港島中町6-10-1
ポートライナー「市民広場駅」下車

定員 200名

参加無料

■参加受付期間
9月2日㊊～10月31日㊍

参加のお申し込みは、下記URLよりお願いいたします。
インターネットをご利用できない方は、下記の運営事務局までお問い合わせください。

お申し込みはこちらから **https://www.ists2019.jp**
※定員になり次第、締切とさせていただきます。

今年は阪神・淡路大震災から四半世紀が経過する節目の年です。震災を起点にこころのケアの大切さがクローズアップされてきましたが、この間に我々は何を学び、何を伝え、どのような変化を生み出してきたのでしょうか。

このシンポジウムでは、災害を通して個人や地域社会にもたらされるポジティブな変化に目を向けます。キーワードは「レジリエンス」。人は、災害や暴力などによって打ちのめされ、心理的苦悩を抱えますが、それに対処し跳ね返す力を持っています。「回復力、復元力」ともいわれます。傷ついた人々を回復させると同時に地域社会としてのレジリエンスを高めることは、将来の災害に備えるために重要です。

災害を機に発展した心理的支援システムについて、米国、インドネシア、東北から専門家を招き、こころのケアセンターの活動も振り返りながら、持続可能で発展的なこころのケアのあり方を考える機会にします。

災害、保健、医療、福祉などの専門家のみならず、たくさんの方の参加をお待ちしています。

主催／こころのケア国際シンポジウム実行委員会
（兵庫県、公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構）

後援／復興庁、JICA関西、朝日新聞神戸総局、読売新聞社、神戸新聞社、サンテレビジョン、NHK神戸放送局、日本トラウマティック・ストレス学会

震災を風化させない
忘れない 伝える 活かす 備える
阪神・淡路大震災25年

開催事務局：兵庫県こころのケアセンター
運営事務局・お問い合わせ先：株式会社JTB 西日本MICE事業部 営業4課
〒541-0058 大阪市中央区南久宝寺町3-1-8 MPR本町ビル9階
TEL:06-6252-5085（土・日・祝日を除く平日9:30～17:30）　FAX:06-6252-4015　E-mail:ists2019@jtb.com

プログラム

13:00 **開会挨拶**

13:15 **兵庫県こころのケアセンター 15年の活動**
加藤　寛（兵庫県こころのケアセンター センター長）

13:45 基調講演1 **東日本大震災後の子どものこころのケア ～8年間の診療と研究から見えること～**
司会…亀岡 智美（兵庫県こころのケアセンター 副センター長）
演者…八木 淳子（岩手医科大学神経精神科学講座 講師、いわてこどもケアセンター 副センター長）

14:35 基調講演2 **アメリカの災害後の心理社会支援：教訓、最近の動向、および災害救援者への支援**
司会…大澤 智子（兵庫県こころのケアセンター 研究主幹）
演者…パトリシア・ワトソン（アメリカ国立PTSDセンター 教育専門官）

15:25 **休　憩**（15分）

15:40 パネルディスカッション 司会…加藤　寛（兵庫県こころのケアセンター センター長）

パネラー報告1 **インドネシアでの被災者の心のケアについて**
報告者…エニ・ヌライニ・アグスティニ
（インドネシアジャカルタ シャリーフ・ヒダヤトゥッラー州立イスラム大学 精神保健看護学部 講師）

パネラー報告2 **原発事故がもたらしたトラウマと心理社会的影響：福島の現場から**
報告者…前田 正治（福島県立医科大学災害こころの医学講座 教授）

パネルディスカッション
パネリスト… 八木 淳子（岩手医科大学神経精神科学講座 講師、いわてこどもケアセンター 副センター長）
パトリシア・ワトソン（アメリカ国立PTSDセンター 教育専門官）
エニ・ヌライニ・アグスティニ
（インドネシアジャカルタ シャリーフ・ヒダヤトゥッラー州立イスラム大学 精神保健看護学部 講師）
前田 正治（福島県立医科大学災害こころの医学講座 教授）

17:45 **閉会挨拶**　亀岡 智美（兵庫県こころのケアセンター 副センター長）

講師プロフィール

八木　淳子

岩手医科大学神経精神科学講座 講師／いわてこどもケアセンター 副センター長

宮城県子ども総合センター、盛岡少年刑務所・少年院などを経て2013年より現職。東日本大震災直後から、岩手県沿岸部の被災した子どもたちの心のケアにとりくみ、いわてこどもケアセンターが開設されてからは、副センター長として被災した子どもとその家族の臨床に携わり、トラウマフォーカスト認知行動療法の普及啓発に精力的に取り組んでいる。また、被災した子どもたちのその後の心身の発達についての貴重なコホート研究にも取り組んでいる。講演では、臨床と研究の両面から、被災した子どもたちの心の問題について報告する。

パトリシア・ワトソン（Patricia Watson）

アメリカ国立PTSDセンター 教育専門官

沖縄の米軍基地内にある海軍病院、ダートマス医科大学精神科講座、アメリカ国立子どもトラウマティックストレス・ネットワークなどを経て2005年より現職。
災害救援者、軍人およびその家族のレジリエンスを高める介入、教育材料の開発や研究に携わる。事件・事故後の心のケアの代名詞となった「サイコロジカル・ファーストエイド」および「サイコロジカル・リカバリースキル」実施の手引きに加え、「戦闘ストレスに対するファーストエイド実施の手引き」の開発者の一人でもある。講演では、災害救援者やその家族への予防および介入について報告する。

エニ・ヌライニ・アグスティニ（Eni Nuraini Agustini）

インドネシアジャカルタ シャリーフ・ヒダヤトゥッラー州立イスラム大学 精神保健看護学部 講師

インドネシアでの災害精神看護の教育、実践の最前線で活動している。これまでに、インドネシア大学で看護学を修め、神戸大学大学院保健学研究科で、2004年スマトラ沖地震後の青少年の長期的なPTSD症状の有症率に関する研究を行い、修士号取得しており、現在も兵庫県立大学大学院共同災害看護専攻（後期博士課程）に在籍し、災害精神保健に関する研究を継続している。最近の活動実績として、災害精神看護に関するNPOのリーダーを務め、2018年のロンボック地震や2019年のスンダ海峡津波などの被災者へのメンタルケアにも従事してきた。講演では、自然災害多発国であるインドネシアでの被災者の心のケアの状況について報告する。

前田　正治

福島県立医科大学 災害こころの医学講座 教授

東日本大震災後に福島県立医大に環境省によって設置された災害こころの医学講座の主任教授。東日本大震災までは久留米大学に在籍しガルーダインドネシア航空機事故やえひめ丸沈没事故などで、被害者支援を行っていた。震災発生時、日本トラウマティック・ストレス学会の会長として、主に福島県内の専門職に対するコンサルテーションを続けてきたが、新講座が設置されるにあたって招聘された。原発事故を経験した福島が直面しているメンタルヘルス上の問題は、放射能による健康被害に関する不安、差別や風評被害、人口減少、地域社会の崩壊など、長期に続く困難な課題ばかりである。こうした問題をどのように理解し、どのように克服する可能性があるのかについて、現地での研究や実践をとおして考察する。